

快挙、県新人駅伝 男子準優勝 ～挑戦がつながり、1%の改善が実を結ぶ～

2月1日、櫛形総合競技場にて「第37回 山梨県中学生新人駅伝競走大会」が行われ、本校では駅伝部の2年生の男女が出場しました。厳しい寒さの中でも、一人ひとりが自分の役割を果たし、襷(たすき)をつなぐ姿は、見る者の心を動かすものでした。

中でも男子Aチームは、見事 県2位(準優勝)という素晴らしい結果を残しました。これは約20年ぶりの快挙と聞いています。夏休み前からBチームと共に積み重ねてきた日々のトレーニング、寒い朝の一步、苦しい場面で踏ん張る力——そうした「小さなチャレンジ」と「1%の改善」の積み重ねが、確かな成果として形になったのだと思います。

男子Aチームだけでなく、他のチームも健闘し、互いに切磋琢磨しながら高め合ってきたことが伝わってきました。大会翌日には、休み時間を使って応援してくれた仲間や先生方にお礼を伝えに来てくれた生徒たちがいました。その表情には、結果以上に大きな経験を得たことがにじんでいました。



そして今回、もう一つ胸を打たれたのが、仲間の応援の力です。創作部の生徒たちが、駅伝に挑む仲間のためにアイデアを出し合い、心を込めて作ってくれた横断幕が、会場で大きな存在感を放っていました。

また、駅伝部以外の2年生たちも仲間の応援に来ていました。走る人だけでなく、支える人の思いが重なり、チームの背中を押す——本校が大切にしている「互いを認め、支え合う文化」が、まさに形になった瞬間でした。

挑戦する人がいて、支える人がいる。

その両方がそろって、学校は強く、温かくなります。

これからも八田中では、結果だけでなく、そこに至る過程——挑戦、改善、そして立ち上がる力(レジリエンス)を大切にしながら、一人ひとりの成長を支えてまいります。保護者・地域の皆様には、引き続き温かな応援をお願いいたします。



卒業証書授与式 ～日日新を胸に、次の一步へ～

3月11日、本校体育館にて第36回卒業証書授与式を挙行了いたしました。卒業生は落ち着いた表情で式に臨み、一人ひとりが証書を受け取る姿から、この三年間で積み重ねてきた努力と成長が伝わってきました。ご臨席いただいた保護者・来賓・地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

式辞では、本校の校訓「日日新」について触れました。昨日の自分に安住せず、今日を新しく生き、明日をさらに新しくしていく。この精神は、これからの時代を生きる子どもたちの力になります。そして卒業生へ、「小さなチャレンジ」「1%の改善」「レジリエンス」という三つの心得を贈りました。比べる相手は他人ではなく、昨日の自分。八田中で培った姿勢が、これからの人生の土台になると信じています。



卒業生代表北野沙和生徒会長の「別れの言葉」には、入学当初の不安と期待、仲間と一つのことを創り上げてきた喜び、うまくいかない時期を励まし合って前に進んだ日々が、まっすぐに語られていました。「一日一日がかけがえのない日々だった」という言葉に、会場の空気が静かに引き締まったように感じました。

今年は、1年生の頃から学年を支え、昨年ご逝去された小菅里香先生のことを、卒業生とともに静かに思い起こす時間もありました。先生が注いでくださった思いは、これからも卒業生の背中を押し続ける。私はそう信じています。

第2部では、呼びかけや手紙の朗読、合唱などを通して、三年間の歩みと感謝の思いが会場いっぱいになりました。涙をこらえながら言葉を紡ぐ姿、隣の仲間の肩にそっと手を置く仕草、声を重ねた合唱。そこには、八田中が大切にしてきた「つながり」と「応援」の文化が、確かに息づいていました。

卒業生の皆さんの前途に、心からの祝福を送ります。保護者・地域の皆様には、これからも子どもたちの挑戦と成長を、温かく見守っていただければ幸いです。



[前日には 在校生サプライズ応援がありました]